

健康と医療について語り合う会

泌尿器科の悩み 学習会開催



聴覚障害者など26人が参加して学習

神戸支部も協力する聴覚障害者の医療を考える会(いのちを考える会)が5月22日に、あすてっぷ KOBE で学習会を開催。原泌尿器科病院院長の原章二先生が「尿の悩み～私だけ特別?～(女性編)」をテーマに講演し、26人が参加した。参加者の感想文を紹介する。

毎回参加させていただきまして有難うございます。

今回は「尿の悩み」についての女性編でした。前は男性編でしたが、体の仕組みは男女で違いますけれど、基本的には大切な腎臓の働きを司るお話です。今回は女性編であまり大きい声で云えることではなくて、私も自分の尿の回数や量等を人様と比べたこともなくて、タイトルの「私だけ特別?」と悩んでおられる方があったと知りました。それぞれ個人差があること、私たちの生活の中で重要なことは、食べること、眠ること、排泄です。その重要な排泄について学ばせていただきました。泌尿器を支える骨盤底筋を鍛えると自然と尿漏れも減ります。そ



原章二先生が筋力トレーニング法について解説の運動は、場所を選ばず何処でもできます。バスを待つ間、乗って吊り革を持っていても出来ます。学んだことを実行して健康な毎日を過ごしたいです。

【参加者・林 節子】

兵庫県保険医協会

270号 2014年6月25日

神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

どうなる!?これからの在宅医療

在宅医療の方向性を考えさせられた

神戸支部会員懇談会を開催



右 点数改定の意味について考える参加者
左 質問に答える、話題提供者の小西達也先生

神戸支部は6月7日、ミヤコ在宅医療サービスとの共催で、在宅医療をテーマとした会員懇談会「どうなる!?これからの在宅医療」を開催し、21人が参加した。日ごろから在宅医療に携わっている、ろっこう医療生協東雲診療所の小西達也先生と赤坂クリニックの赤坂浩司先生、また在宅サービスを展開する業者としてミヤコ在宅医療サービスから東野健悟氏の3人から話題提供を受け、意見交換がなされた。参加者の感想文を掲載する。

感想文

「これからの在宅医療」 に対する我々の役割

これまで在宅医療に対しハシゴをかけていた厚労省が、この4月に「同一建物」

には懲罰的ともいえる点数改定を行いました。その意味を考えたくて、改定後2か月を経た6月7日(土)、梅雨の合間の勉強会に参加してきました。

----- (2面に続く)

(1面から続く)-----

1. 「在宅医療がどこに向かおうとしているか」(東雲診療所所長:小西達也先生)

厚労省の言う、病院・病床の再編、受け皿整備の促進、在宅医療の推進、外来医療の機能分化…などなど言葉はそれらしいのですが、本心は、医療から介護へ、医師から看護師、介護士へ、との意図が透けて見えます。医療費を減らすことが至上命題のようです。特に、看護師による「特定行為」の拡大は、医師の負うべき責任からも無関心ではおられないものです。

2. 「在宅の現場で直面する課題」(赤坂クリニック:赤坂浩司先生)

「同一建物」への訪問を毎日一人ずつにすることでこれまでの収入を維持しておられるとのこと。経営的観点からは厚労省が示した選択肢でもありますし、施設にも頻りに医師が訪問してくれるメリットもあると思いますが、時間的にも体力的にも負担は少なくありません。私もグループホーム2か所への訪問を続けていますが、これまで通り同日診察をしており収入は大幅に減少しています。施設への訪問のあるべき姿としては、試行錯誤の過程のように思います。

3. 「業者から見た実態」(ミヤコ在宅医療サービス:東野健悟氏)

「同一建物」への訪問に対する減額を埋めるために在宅酸素(HOT)を無理やり(と思われる)導入することや、大阪では患者紹介に対してのキックバックや「協力金」と称して数百万円を支払う、



長田区の松岡泰男夫先生(協会評議員)が司会を務めた

病院の地域連携担当者へも紹介一人につき数万円の謝礼、など必ずしも珍しいことではなかった、という現実には驚きますが、珍しくないというのはどうなのでしょう。幸い私の周りではこれほどの例は聞いたことがありませんが、地域の医師会、診療所一つ一つがまっとうな地域医療を行えば、怪しげな「在宅ビジネス」が入り込む余地はないと思われま。そのような地域とネットワークを作るべく努力することこそが我々の課題だと思いました。

在宅医療の現実を医師と業者の方の視点から教えていただきましたが、自分の目指すべき「在宅医療」の方向を改めて考えさせられました。特に、大阪のような現実には、自分たちがどのように行動すれば患者さんや地域を守れるのかを今後考えていかなければなりません。

このような貴重な勉強の機会を与えていただいた関係者の方々に感謝いたします。

(兵庫区 はまの医院 濱野 聖二)



支部研究会を開催

心房細動の抗凝固療法 改定版ガイドラインを踏まえた注意点を学習



右 26人が参加し新ガイドラインを学習

左 福沢公二先生が講演

神戸支部は5月31日に、研究会「心房細動の抗凝固療法に関する最近の話題ー抗凝固療法に関するガイドライン改訂を踏まえてー」をバイエル薬品株式会社の共催で開催した。神戸大学大学院医学研究科循環器内科学分野不整脈先端治療学部門 特命助教の福沢公二先生が講演し、26人が参加した。福沢先生は豊富な臨床経験に基づき、CHADS2スコアなどによるスコアリングとNOACの使用上の注意点などを分かりやすく解説した。

協会ホームページをご活用ください!

協会はホームページで行事のご案内や研究会の抄録、県下各地の活動やニュースなど多彩な情報を発信しています。

診療報酬改定の特設サイトも設置し、最新情報をいち早くお知らせしています。また、Q&Aの掲載やWebでの問い合わせ受け付けもご利用いただけます。

ぜひご活用ください。

協会HPアドレスは <http://www.hhk.jp>

支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。



電話 078-393-1807/FAX 078-393-1802 e-mail kuriyama-h@doc-net.or.jp 担当:栗山まで